

大明神塚と荒神塚

天田内には二基の古墳が現存し、いずれも町指定文化財となっている。大明神塚古墳と荒神塚古墳である。

大明神塚は丸山塚ともいわれこの古墳の隣接地を使用する人は、丸山年貢を区へ納めたという。私有を認めなかった証拠であろう。ここには、古くから金の鶏が埋められているという伝承があったが、大正末年、元伊勢外宮の社格昇格運動が展開されたとき、その裏づけとなる資料が得られないかと地元で発掘された。そのときの様子を古老の方々から聞くと、墳丘の中心部から、長さ三

、径三〇センチの埴、教個の勾玉が出土、館へ送ったという。直径一〇センチ、高さ

あるが、現墳丘の中央「大明神塚」の石



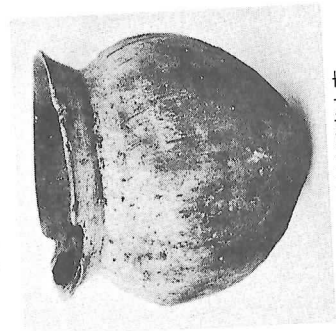
大明神塚は丸山塚とも言われました

碑が立つ。

一方、荒神塚は旧道と橋谷へむかう十字路のかたわらにある。大明神塚と同様、地元で発掘され、ここからも、八センチの直刀が出たという。環頭の大刀であったとい

う人もいる。昭和三四年に道路改修が行われたとき、明瞭な載面が認められたが、出土品は得られなかった。これも現状は半壊状態で、中央に「幸神爾」の石碑が立つ。なお、昭和三四年、綾部一宮津線道路工事で、畑地の掘削作業中、外宮の新旧参道の間の畑地（深さ五〇センチ、幅五〇センチ）のところから、多数の土器片が出土、ほぼ完形の弥生式土器一個が発見された。現在、大江高校に保管されている。

天田内の「天田」という地名は、天田部大和時代、皇室領の田の耕作にあたった田郡に由来するものと考えられており、地元それを裏づける古伝承もある。平安時代の百科辞典「和名抄」にある神戸（律令制度で神社にあてられた封戸）は、旧河守上村に比定されており、ここ元伊勢外宮一帯が早くから開けていたことを裏づけるとともに、元伊勢創祀の由来を考える上で一つのヒントともなりそうである。



豊受神社付近出土土器

しきぶさん —和泉式部伝説—

大江中学校裏の阿良須墓地に「しきぶさん」と呼ばれる古墳がある。しきぶさんと呼ばれるのは、和泉式部のことで、この古墳、式部塚であろう。町内では、このほか、天田内の舟岡山の麓の林の中と内宮境内に式部塚がある。

和泉式部は、清少納言、紫式部と並ぶ平安朝文学の才女、歌人として有名。宮廷に仕え、和泉守橋道真と結婚。その間の娘が「大江山いくのの」歌で知られる小式部内侍。ある親王と恋におち結婚、親王の死後、弟の親王と恋仲になるが、その親王も病死、最後藤原保昌と再婚する。

藤原保昌は頼光に従って大江山鬼退治をした人物とされるが、一一世紀初頭、丹後守として四年間宮津ですごした。式部も丹後へ来たが、保昌が撰津守となり丹後を去ったあともここにどまり、宮津山中の里で生涯を閉じたといわれ、山中には庵の跡や墓がある。

式部歌塚では、天の橋立文珠さんのものが有名であるが内宮の式部歌塚も見事なものである。

在地の古文書「社人伝書記」（一六二三）に、この歌塚は「和泉式部が法花（兼）経一万余巻を書写し納めたものと伝ふ」とある。和泉式部というのは付会であるにし

ても、この式部塚というのは経塚であろう。

経塚というのは、お経を地下に埋納したところ、末法思想の流布した平安末期から鎌倉初期に大流行。未来の弥勒菩薩出現にそなえて、経典を書写埋納した。

中世、憧れの歌人である式部ゆかりの地を、巡歴しながら歌をよんで旅した女性の群があった。そうした女性たちが、自らの極楽浄土を願い、式部の追善供養をかねて埋納したものが式部塚であろう。

仏性寺から北原へむかう途中の地藏峠のお地藏さん、行き倒れになった式部ゆかりの人の墓とも伝えるが、おそらく、こうした旅ゆく途中に亡くなった人を葬ったところであろう。



天田内の式部塚